

(別紙)

耐震計算の誤入力に係る再発防止対策の実施状況

2019年7月
日本原燃株式会社

1. はじめに

2007年8月21日、当社社長は、青森県知事に再処理施設における耐震計算の誤入力に係る報告を行い、2007年8月31日、青森県知事から以下の4項目について要請を受けた。

- (1) 耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査の実施
- (2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底
- (3) 耐震計算誤入力の件についての広聴広報活動の実施
- (4) 日本原子力技術協会による当社と協力会社との連携についての評価

これら4項目について、2019年4月から2019年6月までの実施状況を以下に報告する。

2. 実施状況

(1) 耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査の実施

計算機による設計解析を行う安全性評価業務が新たに発生した場合に、耐震計算誤入力の再発防止対策に係る監査を実施することとしているが、当該業務は発生していない。

(2) 風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底

① 風通しのよい職場風土の醸成に関する活動について

不適切な労働時間管理が発生したことを重く受けとめ、再発防止のために策定したアクションプランに基づき、現場の実態把握や再発防止策に関する経営層同士の対話活動、ならびに経営層と社員との対話活動を実施した。

② コンプライアンスの徹底に関する活動について

第4回コンプライアンス推進委員会(2019年3月13日開催)で審議した「2019年度コンプライアンス推進活動計画」に基づき、従業員の意識・知識の向上等に向けた活動に取り組んでいる。

2019年度第1四半期は、経営層のほか、部長級のコンプライアンス推進責任者、課長級の推進スタッフ、グループ会社が一堂に会したコンプライアンス講演会を、2019年6月10日に開催した。

また、当社及びグループ会社の新入社員にコンプライアンス研修を実施するとともに、全社員に向けたコンプライアンスメールマガジンを4回発信した。

③ 品質保証大会の開催

2019年4月2日に「2019年度 品質保証大会」を開催し

た。2019年度の品質保証活動の取組みに係る社長訓示、各事業部の重点項目の紹介、当社代表及び協力会社代表による決意表明、参加者全員による品質方針の唱和を行い、品質保証への取組みに対する意識の高揚を図るとともに、品質保証活動を強化、徹底することを誓った。

(参加者：協力会社社員含め約2,000人)

(3) 耐震計算誤入力の件についての広聴広報活動の実施

耐震計算誤入力の件については、新聞広告や当社広報誌、地域会議などを通してお知らせしている。(2007年10月29日に報告済)

今後も当社事業全般に関して様々な広聴活動を継続するとともに、頂いたご意見を踏まえて、わかりやすい広報活動に取り組んでいく。

(4) 日本原子力技術協会による当社と協力会社との連携についての評価

2007年12月27日に日本原子力技術協会(現 原子力安全推進協会)より受領した「協力会社との連携に関する特定評価」における改善要望に対する当社の取組み状況の確認結果について、2009年2月3日に日本原子力技術協会より報告を受けた。(2009年4月16日に報告済)

今後、改善要望に対する取組み状況について然るべき時期に改めて確認を受けることとなっている次の項目については、以下のとおり対応している。

- ①「協力会社に発注した業務の管理」
- ②「協力会社とのコミュニケーション改善」
- ③「言い出せる文化・職場風土の醸成」
- ④「コンプライアンス(企業倫理遵守)の取組み」

上記の①の項目については、「業務に精通した主管部署や品質保証部の監査への積極的な参加」や「工事を伴わない解析業務の一貫した管理のルール化」等、確実な設計管理を行うための仕組みを構築し、運用している。

上記の②、③、④の項目については、前述の「2.(2)風通しのよい職場風土の醸成及びコンプライアンスの徹底」において取り組んでいる。

以上